

開成校新聞



▲ホテルでの集合写真(イオン1%クラブ財団より)

昨年8月19日から24日までの6日間に渡って、アジアユースリーダーズが行われた。イオン1%クラブ財団が主催するこのプログラムには、東アジア8カ国から総勢800名の学生が参加し、本校からは5年生3名が参加した。このページでは20日に行われた研修の様子を伝える。

発行
開成中等新聞局
発行責任者 宮崎
* * *
制作者
渡邊

Asia Youth Leaders

1日目(8/19) オリエンテーション、 食事会
2日目(8/20) 和菓子作り体験、 国会議事堂訪問、BBQ
3日目(8/21) 東京大学訪問、 浴衣&盆踊り体験、 浅草見物
4日目(8/22) 幕張新都心イオン見物
5日目(8/23) プレゼン発表、授賞式、 各国パフォーマンス披露、 フェアウェルパーティー
6日目(8/24) 東京タワー見物

▲日程表

20日午後には茶道体験を行った。竹田理絵先生を講師に迎え、茶道の歴史講座や煎茶実践、和菓子作り、お茶点で体験などを行った。和菓子作りでは、餡の状態から竹串を用いて朝顔を模した和菓子を作った。多くの参加者が、餡を練る工程に苦戦しながらも和菓子作りを楽しんでいた。特に抹茶は、海外でもMATCHAとして知られて



▲朝顔を模して作った和菓子

和菓子作り体験



▲BBQでの写真

20日の夕食は、お台場にある会場でBBQを行った。一部地域からの参加者にとっては今回が初めてのBBQであったようだ。普段行動を共にするチームとは異なり、くじ引きで選ばれたメンバーでテーブルを囲うため、初対面の面々で親睦を深めた。

いるため、今回各々が点てた抹茶も大変好評であった。

BBQ

アジアユースリーダーズとは

アジアユースリーダーズとは、イオン1%クラブ財団が主催する、次の世代を担うリーダーの育成を目的としたプログラムだ。プログラムを通して、アジア各国の高校生が視察や専門家によるレクチャーに基づき、英語での議論を重ね、社会問題の解決策を提案する。今年度は「未来のリーダーに求められる資質」というテーマで東京で開催され、日本、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスの8カ国の高校生たちが参加した。



Asia Youth Leaders

昨年8月19日から24日までの6日間に渡ってアジアユースリーダーズが行われ、本校の5年生3名が参加した。このページでは21日の研修の内容を紹介する。

東大訪問



▲東京大学での集合写真

8月21日、参加者は東京大学を訪問した。参加者は赤門、三四郎の池、安田大講堂などを巡ったあと、北村教授による『国家の発展における教育の役割』の授業を受けた。

授業では各国からの参加者が自国の教育の特徴や改善点を共有していった。北村教授によると日本の教育の特徴として、授業外でも部活や給食などで生活面の指導を行っている点が挙げられるそうだ。参加者は、国を越えた比較によって自国の教育の現状に対する理解を深めていった。

浴衣体験

東京大学を訪問後、参加者は着物を着て盆踊り体験や殺陣体験を行った。参加者は用意された着物の中から好みの柄のものを着用し、細川千穂有佳先生の指導により盆踊りを体験した。伝統的な楽曲に加え、ダンシングヒーローなどのポップ曲も盆踊りの振り付けで踊った。その後に希望者は、殺陣と呼ばれる斬り合いの演技を体験した。模擬刀を使ったこの体験は、海外からの参加者に好評だった。

それらが終わった後に参加者は、着物を着用したまま浅草を散策した。



▲浴衣での浅草散策の様子

◀雷門前での記念写真

参加者の声

5-2 高橋瑠々花さん

今回のAYLでの、アジア7カ国から集まった海外の高校生と「未来のリーダーに求められる資質」について英語で議論し、結論を出し、プレゼンテーションを行うという課題は、MYPでの学習や普段のDPで「議論慣れ」していても難しく感じました。それぞれの国民性や社会問題についての国の現状、価値観などに違いが多い中でコンセンサスを築くことがいかに難しいのか分かりました。

それでも英語でコミュニケーションをとりながら自分なりの関わり方ができたこと、チームで1つのプレゼンを無事完結できたことには達成感を覚えます。



▲開成からの参加者の集合写真

5-2 佐々木仁瑚さん

開成の授業では、グループワークやディスカッションなど協働スキルを活かす場面が多いですが、リーダーシップについて改めて考える機会はありませんでした。

今回のAYLを通して、改めて「リーダー

シップとは」という問いについて学ぶ貴重な経験ができ、今後の学びに還元していきたいです。

加えて、海外からの参加者を迎え、日本文化や歴史を紹介するプログラムで、日本文化の魅力を再認識することができました。プログラム中に海外の参加者から、日本での食事のマナーや参拝の仕方などの私たちにとっての当たりまえに対して「どうしてそういう風にするの?」と問われる度に、自分自身もなぜそのようにするのか、と考える事がありました。改めて外の視点から日本文化を考えることで、私たちの固有性や当たり前を探り、再認識する貴重な機会になったと思います。



1/365コマ

8期生の新聞局引退パーティーで使われたファンシーな飾りつけ。徐々に千切れゆく様もまた趣がある。



発行が遅くなり、大変申し訳ございません。学年は昨年度のもので、開成はこのような魅力的な外部活動がたくさんあります。ぜひ参加してみましょう。

Asia Youth Leaders

昨年8月19日から24日までの6日間に渡ってアジアユースリーダーズが行われ、本校の5年生3名が参加した。このページでは23日の内容を紹介します。



▲プレゼンテーションの様子

プレゼンテーション

参加者は8人グループに分かれて、選択した社会課題に関するプレゼンテーションを5日間の活動日を通して制作した。23日のプレゼンでは、選択した社会課題へのアプローチと、そのアプローチを行うために必要なリーダー像を各々が自由な形式で発表した。現在のAI問題を三匹の子豚オマージュで発表しているグループや、慈悲的性差別を家族団欒であるあるを用いて発表しているグループなど多種多様であった。10分間のプレゼンが終わった後は、大学教授やイオン1%クラブ財団事務局長などの審査員から講評が述べられた。



プレゼン中の高橋瑠々花さん▲

参加者の声

5-1 渡邊城太さん

私がこのプログラムの中で最も印象に残っているのは、海外からの参加者との日常会話です。他国の慣習や文化そのものについて知ることは、今の時代ではそう難しくはありませんが、その慣習や文化に対する現地の人々の生の声については中々聞くことができません。そのため彼らが、授業の一環として銃の組み立てを行うことや、授業が22:30まで行われることに対してどう思っているか知ることができたのは貴重な経験でした。今後私がグローバルな課題に取り組むときには、他国の文化に対して勝手な想像をせず、自分は他国の文化圏の外側の存在であるという自覚を持とうと思います。

フェアウェルパーティー

プログラムの最後は、フェアウェルパーティーで締められた。参加者はそれぞれの国の伝統衣装を纏って会場に集まった。パーティーは各国代表からのスピーチ、プレゼンの優秀チームへの賞状授与、食事の段取りで行われ、食事の間には各国からの参加者が伝統芸能を披露していった。

伝統芸能の披露では、主にゆかりの歌や伝統的な踊りが披露された。

中国グループの発表▶



▲インドネシアグループの発表



▲ベトナムグループの発表

制作者
渡邊
発行責任者
宮崎

開成校新聞

AYL, program to educate future leaders

Asia Youth Leaders is a program organized by the AEON 1% Club Foundation to develop the leaders of the next generation. Through the program, high school students from various Asian countries visit cultural and political sites, listen to lectures by experts, hold discussions using English as a common language, and propose solutions to social issues. This year, the program was held in Tokyo under the theme of "Qualities needed for Future Leaders" and was attended by high school students from eight countries: Japan, Indonesia, Cambodia, Thailand, China, Vietnam, Malaysia, and Laos.

Learn about Aeon 1% Club Foundation

The Aeon 1% Club Foundation carries out social contribution activities funded by 1% of the Aeon Group's profits. The foundation sets four main purposes of their activities: Healthy Development of Children, Friendships with Other Countries, Local Development Contributions, and Emergency Disaster Recovery Support. In addition to AYL, there are many other programs run by Aeon 1% Club Foundation to which Kaisei students can apply.



▲Cambodia team performance

Cultural exchange in AYL

During the program, participants had many opportunities to experience other cultures. Participants experienced many Japanese traditions like Japanese sweets-making, tea ceremony, wearing Yukata, and Bon-Odori. Not only foreign participants, but many of the participants from Japan also experienced them for the first time. On the third day, Professor Kitamura gave a lecture to the participants about "The role of education in the development of nations". Participants shared their own country's current situations and issues on education, which broadened the participants' perspectives.

Also, the everyday discussion for the final presentation was full of cultural experiences too. Many participants struggled with having discussions with participants from the other countries. Some suffered from high level English conversations and some suffered from the different styles of discussions, or the different logic used to solve issues. But at the end of the program, a farewell party was held and participants enjoyed the diverse traditional dress and performances.

"What a brilliant experience!"-Adison, Yali Middle school

Participating in AYL was absolutely a brilliant experience. I felt not only joy, but also a sense of a broadened horizon. Cultural exchange was a fascinating part of the program. With participants from eight different countries, I've gained tons of knowledge on their cultures. The sparks of ideas were even more impressive in this event. Discussing social issues, we raised questions from the perspective of the circumstances in each of our own countries, and hammered out joint solutions. That enabled us to optimize our solutions and conclude what future leaders need to make the world a better place.

I feel fortunate to have participated in AYL, for letting me improve myself, and more importantly, for helping promote mutual understanding between countries. I would definitely participate in it again if I have the opportunity!



▲Adison (Left) and Jota (Right)